

1 プログラム概要

香港特別行政区政府教育局が派遣した香港高校生訪日団第3陣71名が、12月15日から12月23日までの8泊9日の日程で来日しました。(団長:郭民亮(カク・ミンリョウ) 佛教葉紀南紀念中学校長)

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、広島県、大阪府、神奈川県を訪問し学校交流を行ったほか、上記府県と東京都において、大学訪問、環境・防災施設の視察等、「クールジャパン」をテーマにさまざまなプログラムに参加し、歴史・文化・社会・科学技術・環境・防災に関する包括的な対日理解を深めました。

2 日程

12月15日(火)

成田国際空港より入国、オリエンテーション

12月16日(水)

桜美林大学訪問、JAXAの宇宙開発利用と有人宇宙活動に関する講義、歓迎会

12月17日(木)

広島県へ移動

第1グループ: 広島市中工場視察、縮景園見学

第2グループ: エフピコ愛パック(株)福山選別センター視察

12月18日(金)

第1グループ: 武田中学校・高等学校訪問・交流

第2グループ: 福山市立福山中・高等学校訪問・交流

12月19日(土)

第1グループ: 広島平和記念公園見学、被爆体験講話

第2グループ: 福山城見学共通: 世界遺産・厳島神社見学、日本文化体験(しゃもじ作り)、和風旅館での日本文化体験

12月20日(日)

第1グループ: 大阪府へ移動、大阪市立阿倍野防災センター視察、大阪城見学

第2グループ: 広島平和記念公園見学、被爆体験講話、東京都へ移動

12月21日(月)

第1グループ: 大阪府立茨木西高等学校訪問・交流

第2グループ: 神奈川県立百合丘高等学校訪問・交流

12月22日(火)

第1グループ: 東京都へ移動、皇居・二重橋見学

第2グループ: 本所防災館視察、浅草寺見学

共通: 商業施設視察、歓送報告会

12月23日(水)

成田国際空港より帰国

3 写真

	
12月16日 桜美林大学訪問（東京都） 12月16日 访问樱美林大学（东京都）	12月16日 JAXAの宇宙開発利用と有人宇宙活動に関する講義（東京都） 12月16日 听取关于 JAXA 的宇宙开发利用及载人航天活动的讲座（东京都）
	
12月16日 歓迎会で江田五月日中友好会館会長と談笑する団員（東京都） 12月16日 欢迎会 与日中友好会馆会长江田五月畅谈的团员们（东京都）	12月16日 歓迎会で日本の高校生と交流（東京都） 12月16日 欢迎会 与日本高中生交流（东京都）
	
12月17日 広島市中工場視察（広島県） 12月17日 考察广岛市中工厂（广岛县）	12月17日 縮景園見学（広島県） 12月17日 参观缩景园（广岛县）

	
12月17日 エフピコ愛パック(株)福山選別センター視察 (広島県)	12月18日 武田中学校・高等学校訪問・交流 (広島県)
12月17日 考察 FPCO AI PACK 株式会社 福山分类中心 (广岛县)	12月18日 访问武田初中/高中并进行交流 (广岛县)
	
12月18日 福山市立福山中・高等学校 訪問・交流 (広島県)	12月19日 福山城見学 (広島県)
12月18日 访问福山市立福山初中/高中并 进行交流 (广岛县)	12月19日 参观福山城 (广岛县)
	
12月19日 世界遺産・厳島神社見学 (広島県)	12月19日 日本文化体験 (しゃもじ作り) (広島県)
12月19日 参观世界遗产严岛神社 (广岛县)	12月19日 体验制作工艺勺子 (广岛县)

	
12月20日 大阪市立阿倍野防災センター 視察 (大阪府)	12月20日 大阪城見学 (大阪府)
12月20日 考察大阪市立阿倍野防灾中心 (大阪府)	12月20日 参观大阪城 (大阪府)
	
12月20日 被爆体験講話 (広島県)	12月20日 広島平和記念公園見学 (広島県)
12月20日 听取原子弹受害者经历介绍 (广岛县)	12月20日 参观广岛和平纪念公园 (广岛县)
	
12月21日 大阪府立茨木西高等学校訪問・交流 (大阪府)	12月21日 神奈川県立百合丘高等学校 訪問、交流 (神奈川県)
12月21日 访问大阪府立茨木西高中并进行交流 (大阪府)	12月21日 访问神奈川县立百合丘高中并 进行交流 (神奈川县)

	
12月22日 皇居・二重橋見学 (東京都)	12月22日 本所防災館視察 (東京都)
12月22日 参观皇居二重桥 (东京都)	12月22日 考察本所防灾馆 (东京都)
	
12月22日 浅草寺見学 (東京都)	12月22日 歓送報告会で訪日の感想を発表 (東京都)
12月22日 参观浅草寺 (东京都)	12月22日 欢送报告会 团员发表访日感想 (东京都)

4 参加者の感想（抜粋）

<第1グループ>

○今回の訪問では、日本の高校生と交流するという貴重な経験をすることができた。学校交流では、現地の高校生とのおしゃべりや校内見学のほか、授業や部活動を体験したことで、日本の教育制度や文化についての理解と、日本と香港の学生間の交流を深めることができた。また、今回の訪問では、東京以外の都市についても理解を深められた。特に、日本の西側にある広島県では、県内の観光スポットを参観し、素朴で人情味あふれる街の雰囲気を感じることができ、宮島・厳島神社の参観では、日本の伝統文化と歴史についての認識を深めることができた。ごみ処理場（広島市中工場）等の大型施設では、日本の先進的で充実した技術を見るなど、さまざまな体験はどれも印象深いものとなった。

帰国後、日本で見聞きしたことを、クラスメートや家族、友人たちとシェアして、日本と香港のそれぞれの良い点を伝えたい。長い目で見て、今後、日本と香港が安定した良好な関係であり続けること、お互いの社会、経済成長のために努力していくことを望んでいる。

○周知のとおり、ここ数年、中国と日本の両国は、尖閣諸島の問題で緊迫した状態が続いている。しかし JENESYS2.0においては、日中両国の関係は改善が見られ、両者は、今回の日中学生間の交流を通じて、互いに理解を深め、両国の文化によって互いの発展を促し、中国5千年の歴史を発展させ、

相互に交流し、前進することを願っていると感じた。

私にとって最も印象深かったのは、広島市中工場（ごみ処理場）の視察である。香港が現在直面している問題は、ごみ埋立地の飽和状況である。将来、香港のごみをどのように処理していくのかは、香港にとって大きな挑戦である。ごみ焼却炉を視察した時、香港は日本のごみ分類システムを手本にすべきだと思った。例えば、月曜日と木曜日は個別の家庭ごみの分類を行い、倉庫や商店のごみ処理は有料にするなどしてごみの量を減らせば、香港のごみ埋立地の飽和問題も改善できると思う。香港では、土地利用に制限があり、ごみ焼却炉を建設することはできないが、ごみの分類から着手すればいいと思う。香港のごみ埋立地飽和問題を軽減するために、日本の環境保全分野から学ぶべき点はたくさんある。

帰国後、日本の時事ニュースについて周りの人とディスカッションしたり、広島の被爆体験講話や世界遺産の参観、学校交流を含めた活動や日本の歴史などを紹介したりすることで、さらに多くを学ぶことができると期待している。今後の社会の主人公となる私たちは、日中両国の交流の機会が将来さらに増えること、両国がともに成長することを願っている。

○今回の訪問の中で最も印象深かった出来事は、学校法人吳武田学園武田高校と大阪府立茨城西高校の2校での学校交流である。1校目では、日本の授業を体験できたばかりでなく、餅つきや柔道の楽しさを知ることができた。中でも一番重要なのは、バディーと知り合えたことである。彼女は、とてもシャイで、最初は私から質問するばかりだったが、徐々に打ち解け、彼女から腕を組んできてくれたときはとても嬉しかった。最後のお別れでは、私たちのバスが見えなくなるまで手を振って見送ってくれた。彼女のやさしさとまじめさにとても感激し、忘れない思い出となった。また、茨城西高校での交流では、学生が歓迎してくれて、積極的に英語で話しかけてくれた。ダンスの授業では、一生懸命にダンスのステップを教えてくれた。お別れのときには、私たちのバスの後を追いかけてくる学生もいたほどで、とても思い出深い。

帰国後、周りの人に日本人の優しさとおもてなしの心を伝えたい。日中関係が緊張した状態にあっても、日本の高校生の私たちに対する優しさには全く影響することはない。政治における緊張状態は、両国の青少年交流を妨げるものにはならず、友情が弱まるることもない。日本に対して偏見を持っている人々が、日本人の優しさを知り、考え方を変えることを望む。また、日本の学生は自主性があり積極的である。彼らが部活動に参加するのは、自分の成績を上げるためではなく、純粋に自らの意志で参加している。彼らは練習時間がどんなに長くても一生懸命に部活に打ち込んでいて、香港の高校生がいろいろな学業経験を積むために無理やり部活動に参加しているのとは、まったく異なる。私は、クラスメートや友人がこの精神を学び、自分の好きなことに全力投球すること、部活動が私たちにとって重い負担ではなく、学校生活におけるストレス解消法になることを願っている。

○周囲の人に伝えたいことは、被爆者の体験談と学校交流を通じて感じた、戦争は悪いことだということと、日本人の人柄である。被爆者の方から体験談を実際に聞き、関連施設を視察し、歴史的な映像が私の目に映った。また戦争が人々に深い影響をもたらすものだと身を以て感じた。原爆は短時間で焼死させるという被害をもたらすばかりか、長期間にわたり住民に放射能の影響を与え、苦しめる。今回の経験を、周りの人により深く理解してもらえるように伝え、戦争反対を訴えたい。また、日本の学生との交流について、学校交流での経験をシェアしたい。日本人は手を抜くことなく何事に対しても一生懸命に取り組むということを知った。これは香港の学生に欠けている点である。周りの人と今回の思い出をシェアし、日本人の良いところを学び、香港の学生の物事に取り組む姿勢が改善されることを望んでいる。

○最も印象深かったことは、武田高校での学校交流のときに起こった、ある小さな出来事である。授業中、水分を取りすぎた私は急にトイレに行きたくなつたが、初めて訪れた場所だったため、どこにトイレがあるのか分からなかつた。私のバディーは、私の様子を見て、すぐに教室から私を連れ出してくれた。拙い英語でトイレまで案内してくれると私に話しかけてくれた。いくつかの廊下を通り抜け、やつとトイレに到着した。トイレから出て、教室に戻ろうとすると、なんとバディーがトイレの入口のところで待つてくれた。私はとても驚き、彼女に何度もありがとうと伝えた。彼女がいなければ、教室にたどり着くまでに1時間以上かかったと思う。「もしも腹痛で、トイレから長時間出てこなかつたとしても、ずっと待つてくれるの？」と私が尋ねると、彼女は笑顔で「迷子で教室に戻れないかと心配でしょう！」と答えてくれた。

この言葉に私はとても感動した。日本の学生は自分よりも、他人のことを考えている。ほかの場所ではこのように人に接してもらったことはない。日本だからこそこれほど素養が高いのだと思う。周囲の人々に伝えるとしたら、こうした日本人の人に接する態度について伝えたい。

○日本で最も印象深かったことは、学校交流である。日本の高校生活は多種多彩で、香港にはないものもたくさんあった。例えば、体育祭（皆、応援服を着て自分のチームの応援をする）、文化祭（自分たちで焼きそばやタコ焼きの屋台を出店する）、球技大会（香港では陸上競技しかない）などがある。日本の高校は制服がとてもかわいく、校内はとても清潔だった（室内ではスリッパに履き替え、トイレは水浸しになっておらず、シャワートイレまである）。また、さまざまな部活動がある（野球部、家庭科部、フォークソング部、茶道部、書道部など）。美術部には日本のアニメに関する絵がたくさんあって、親近感があり、そこに身を置くと一体感を感じることができる。香港では、人物画やスケッチ、風景画ばかりである。日本の高校生との交流では、最初は会話が続かず気まずい雰囲気になりがちだったが、彼らが一生懸命に私たちをもてなしてくれたことで、私は自信を持てるようになった。日本語で交流するのは、とても不思議な感じがした。それは、私が普段日本語をインターネットから独学で学んでいるからである。今回初めて日本人と話すことができ、コミュニケーションが取れて、とてもうれしかつた。日本についてもっと多くのことを理解し、日本語の勉強もさらにがんばりたい。

周りの人に伝えたいことは、日本がとてもきれいで、人にやさしいデザインがあふれているということである。どんな小さなことでも、発明して問題を解決する。例えば、バスの座席にあるフックやカップホルダー、小物でも個別包装し値札をきちんと持ってくれるサービスなど、心配りができる、人情味を感じた。「また日本に来ます！」

<第2グループ>

○福山市立福山中・高等学校での学校交流が最も印象深かった。学生は親切で友好的で、とても感動した。まるで昔からの友人のように、彼らは私に積極的に話しかけてくれた。英語が得意でないにもかかわらず、英語で日本の文化について紹介してくれた。授業以外ですばらしいと思ったのは、勉強と部活動をバランスよく両立させていることである。交流会での吹奏楽部と少林寺拳法のパフォーマンスは、とてもすばらしく、魅了された。

帰国後、自分が経験したこと、今回のような交流計画のメリットをクラスメートや家族に伝えたい。今回、日本独特的学校文化を直接経験し且つ理解でき、また日本と香港の高校生活の違いについて身を以て感じることができた。私の周りの人にも、今回のような活動に積極的に参加し、視野を広げるよう勧めたい。今回の訪問では、自ら日本の高校生活を体験できただけでなく、自分の家では味わ

えない経験もでき、また多くの友人との出会いもあった。訪日団に参加して得た情報を周りの人々にたくさん伝えようと思う。

○今回の訪問で最も印象深かったのは、日本は環境保全が進んでいるということである。バスの車窓から見た都会であれ、郊外であれ、どこも緑化が進み、原爆被害地の広島でも、いろいろな地域から送られた植物が植えられ、政府が環境を重視していることが分かった。また、エフピコ愛パック（株）福山選別センターの視察では、先進の処理システムや整備された企業運営、政府からの助成金や支援に驚いた。香港という小さな都市にとっても参考になる。香港では、市民の環境保全意識は低く、街の至る所でごみ箱を目にし、ごみの分類やリサイクルという意識が低い。日本では、学生も分類やリサイクルを大切にしているので、私は恥ずかしく感じた。日本人のすばらしい生活習慣は、子供から大人まで教育や社会全体に根付いているのだと思った。日本の環境面で進んでいる点は忘れない出である。

帰国後、家族やクラスメート、友人などに、環境を大切にするよう伝えたい。また、まずは自分から、ごみが出るテイクアウトなどの利用を控え、ごみの分類とリサイクルを実践し、学校や町中にあらゆる資源リサイクルボックスを活用していきたい。その他、列に並ぶ、時間を守る、挨拶をするなど、ルールを守り人を大切にする文化を広めて、礼儀を重んじる国にしたい。

○一番印象深かったのは、言うまでもなく百合丘高校での学校交流である。百合丘高校の学生は皆親切で、女子はかわいく、男子は面白かった。私は日本語が全く話せないが、家庭科の授業のとき、彼らが辞書やスマートフォンの翻訳機能を使う、友達に聞く、ジェスチャーするなど、あらゆる手段を使って私に教えてくれたので、作品を完成させることができた。その作品は、とても意味のあるプレゼントとなった。教室で遊んでいるとき、日本の学生が活発である一面を見てくれた。男子であれ、女子であれ、皆積極的に私とおしゃべりしたり、写真を撮ったりした。一番驚いたことは、制服を交換して着替えようと言われたことである。私はもちろんOKと答えた。日本のかわいい制服を着て、日本の高校生活をしっかりと体験することができた。

帰国後、周りの人に伝えたいことは、私たちはもっと環境保全に努力を注ぐべきだということである。日本のリサイクルや環境保全の面は、香港よりも科学技術的に発展している。先進技術で異なる種類のものを選別し、破碎し、再利用して別の物を作っている。香港では、回収する量にも問題があり、リサイクルするという意識が乏しく、基本的なことすら知らない人もいる。行動を以て、周りの人に影響を与え、さらに環境保全について努力していきたい。

○今回の訪問の中で最も印象深かったのは、2回の学校交流と本所防災館の視察である。二つの高校では高校生活を体験し、日本の学生や教育方法、校則などについて理解を深めることができた。また、日本と香港では教育面で異なる点があることも分かった。例えば、日本の学校は昼休みが短く、わずか40~45分しかないが、香港では1時間ある。日本の学校には、昼食後に掃除の時間があり、全校生徒が掃除するが、香港では掃除の時間はない。日本では、12歳から英語の勉強が始まるが、香港では幼稚園（3歳）から勉強を始める。

本所防災館では、珍しい体験ができた。香港は天災があまりない恵まれた地域であるため、類似した施設がない。震度7の地震体験は刺激的だった。

帰国後、周りの人に伝えたいことは、感謝の気持ちである。日本では、学校に用務員がいない又はいても少人数で、学生自らが掃除をし、学校をきれいにする。用務員さんがいて学校をきれいにしてくれ、机や椅子がきちんと並べられているのは当然のことではないのだ、ということが分かり、用務

員の方に感謝の気持ちを持たなければならないと思った。また香港では、ありがたいことに大きな天災に見舞われることなく、安全で平穏な生活が送れており、その恵まれた環境にも感謝しなければならないと感じた。